

## 第6回鉄道分野におけるカーボンニュートラル加速化検討会 結果概要

日時：令和5年5月19日（金） 10:00～12:00

場所：中央合同庁舎3号館11階特別会議室（対面形式とWEB形式の併用）

事務局からの説明後、以下の意見交換がなされた。

### <学識経験者>

（大崎委員）

- 3本の柱の2つ目が「鉄道アセットを活用した地域の脱炭素化」となっているが、地域の話に限定してしまうのは少し違うのではないかと。例えば鉄道網の送電網化はもう少し広域的な話も含まれているし、鉄道による水素輸送も、場合によっては日本全体を考えた上でのプランでもあるので、柱のタイトルを再検討いただいた方がよいのではないかと。
- P11の表で従来型とVVVF型とあるが、従来型は直流モーターを抵抗制御やチョッパ制御しており、一方のVVVF型は交流モーターであるので、この直流と交流の区別も明記したほうがよい。
- 半導体という言葉が半導体デバイスという意味で使われているところがあって気になるので、全体的に見直していただきたい。
- ロードマップについて、項目によっては左から右にうまくつながっていないと感じる部分がある。スペースの制約はあるかもしれないが、上手くつながるようにしたほうがよい。

（瀬川委員）

- 日本の鉄道の優位性の部分が控えめに書いてあるが、海外に行くと、日本の鉄道がエネルギーの面だけでなく利便性という面でも圧倒的に優れていると感じる。日本の各鉄道事業者もそれぞれ先進的な取組を進めており、鉄道分野は日本が世界に先駆けていることや日本の鉄道輸送モデルやその技術が世界展開できるものであるという位置付けで、少し加筆していただけるとよい。
- Scope 3の見える化にあたっては、鉄道事業者毎に具体的に輸送に係るCO<sub>2</sub>排出量が実際にどれだけなのかを明示してほしい。また、各鉄道事業者が森林吸収やクレジットの購入などの方法も含めて、鉄道を使った場合のScope 3でカウントされるCO<sub>2</sub>排出量をできるだけゼロに近づけられるような工夫をお願いしたい。
- 環境に優しいから鉄道を利用しようという言い方よりも、利便性や経済性の面から自然に鉄道を使ってもらえるようにするためにどういう仕組みを入れていくかを書けるとよいのではないかと。
- 鉄道網の送電網化のところは、全国的な系統整備の大きな話とマイクログリッドのような小さな話が混在して短い文章にまとまっているのでわかりにくくなっている印象。あまり省略せずに書いたほうがよい。
- 電気の輸送と水素輸送の部分は矛盾するのではないかと。再生可能エネルギーは電気しか作れないので、鉄道の送電網を利用して電気を運んでオンサイトで水素をつくる方が効率的ではないかと。その辺り、書き足りていない部分があると思うので丁寧に書いていただきたい。

（納富委員）

- 鉄道の利便性、快適性が担保されている中において、環境性を入れ込んでいくことになるのだと思う。ベース

となる利便性、快適性について、もう少し書き加えられる余地があるのではないか。

- Scope 3 を含む見える化をするにあたって、旅客輸送に係る一般的な指標としては「人キロ」が使用されているものと理解しているが、エネルギー消費やそれに伴って発生する環境負荷を考える場合には、貨物の「トンキロ」のように、どれだけの重さのものを運んだかの指標の方が、物理的に影響度を説明しやすいのではないか。今後、各施策の効果を把握して評価していくにあたって、いかに真に近いデータを実態データとして集めるかといった方法論も具体化していけるとよい。

#### <関係事業者・オブザーバー>

(JR 東日本 渡利常務)

- 書いていただいているが、運輸部門全体での排出削減の中で鉄道が果たす役割は大きいと思っている。コロナ禍で下がった分担率を短期的には戻しつつ、長期的には更に高めてまいりたい。
- 利便性の部分に関連して、ドアツードアで移動できる自動車に対して、鉄道は駅まで行かないといけないという面もある。交通モードの特性を踏まえ、鉄道の大量・高速輸送の強みが発揮できる場所で活躍することが大事だと思う。
- また、利便性向上、モードチェンジを引き起こしていくための政策的な部分をお願いしたい。海外ではプライシングなど政策的な事柄もあるところ。GX 投資に対する支援をいただければと思うし、分担率をさらに上げていくための政策的な動きについてもご検討いただきたい。鉄道事業者側から提案をすることも考えていきたい。

(民鉄協会 野澤常務)

- 鉄道が環境面で優れている話であるとかコロナ禍で低下した分担率を上げていくという記載があり励まされた。利便性の部分に関して、鉄道事業者はバリアフリー化や相互直通運転、着席サービスなどに取り組んでいる。環境優位性のある鉄道の利用促進について、実行性のある施策をお願いしたい。業界として広報活動にもしっかり取り組んでいきたい。

(鉄道総研 重枝部長)

- ロードマップを見ると、現在の鉄道アセットを活用した蓄電量は結構あるなという印象を受ける。まずは足元のアセット活用が大事だと思うので、こういった活用事例も取組事例集の中に加えていくとよい。

---

(山内座長)

- 基本的には原案についてご了解いただいた。ご指摘もあったので加筆・修正は事務局で対応し、委員や関係者に連絡を取っていただいた上で、最終的には座長に一任とさせていただきたい。